

いわさき 岩崎町内会

町内会加入：89 世帯



泥中の蓮

岩崎町内会 かずき や平

50年史を綴ると聞き、30年前に発行した「自治会の20年史」を開いてみた、さすがに綴られている事柄は古き良き潮の香りと下駄の音が・・・そんな岩崎町の風情が語られていた。

さて、それでは激動の30年が「我が岩崎通り」をどんな様に変えていったのか、高度成長・バブル・コロナ等々正に今後の社会教科書に載る事（良きせよ悪きにせよ）が沢山ありました。

鳥羽の玄関口と言われ、たくさん連ねていた土産物店も駐車場になり、廃墟と化したビルは負の遺産として残っております。

しかし、岩崎気質はここ数年の間に市政の方向と同じくして、繁栄の起点を海に持っていきました。町内会の有志は日本の港町を巡り研究し、県職員・商工会議所・街づくり関係者と何度も構想を重ね「カモメの散歩道」を建設、そして「マリナーミナル」と続きます、その思いは今も尚、海辺の開発に応用されております。もちろん市街地には、昔からの暖簾を保ち全国から訪れる方々に「海の幸」を提供して、鳥羽の魚は天下一品と喜ばれております。

そして今後は、海と山の巧みなコントラストで鳥羽市の入口観光地としての繁栄を、岩崎人はもとより岩崎で働く人の仲間と共に目標として進んで行くと信じております。

いま、思えば現在は国道が走っている所に栈橋があり、夏の夜には町内の釣り好きが集まり、サバ・アジなどの大漁と夜を照らす水銀灯の周りに集まる昆虫、カブトムシまで飛んで来たのを思い出します。子供も住む人も少なくなりました、ステージは変わっても町を愛する素朴な田舎者それが岩崎人です。

*タイトルの「泥中の蓮」とは・・・回りの環境がどれだけ悪くなくても美しさを保つ。



昔の我が岩崎通り

ほんまち
本町町内会

町内会加入：90 世帯



本町町内会 会長 林 泰典

【年間の主な行事】

4月 春祭り 6月 町内一斉清掃 9月 敬老会 お祝い品配布
11月 防災訓練

おおざと
大里町内会

町内会加入：43 世帯



大里町内会 会長 岡田 喜代晴

【年間の主な行事】

4月 賀多神社祭礼 5月 町内一斉清掃 8月 お盆精霊送り
9月 敬老の日の行事 11月 鳥羽市一斉防災訓練

わかたけ
若竹自治会

自治会加入：6 世帯



若竹自治会 会長代理 杉本 栄子

令和6年度より新体制となり、集会所にて防災研修等を開催している。

にしきまち

錦町町内会



町内会加入：66 世帯

雑感・町内会長として

錦町町内会 会長 勢力 吉男

錦町町内会長として四期七年目を迎えている。小学生の頃、何度か答志島から祖母に連れられて、錦町や安久志の親戚を訪ねたことがある。鳥羽駅辺りからは観光客の流れも多く、賑やかな岩崎・錦町・中之郷の通りを物珍しく歩いた覚えがある。現在でも、営業をされている飲食店での昼食が懐かしい思い出の一つとして残っている。昭和三十年頃から始まった日本の高度経済成長期に、答志島で育ち、実家の水産加工業を二人の兄と共によく手伝ったものである。あの頃は、伊勢湾で獲れたマイワシ・カタクチイワシ・コウナゴ漁の水揚げも多かった。

学校を卒業してから、最初の就職先は兵庫県神戸市であったが、三年間の勤務を終えて昭和五十一年三月に鳥羽に戻ってきた。現職時代は、日々の仕事のことで精一杯であったが、五十歳を過ぎた頃より町内会役員に選出されるようになり、令和元年度から町内会長を任されている。

勤務先の殆どが鳥羽市内であったために、知り合いも多くなり、特に町内では錦町子供の会の活動や、四月上旬の神社例大祭に合わせて行われる鳥羽春祭り、更には町内会の諸行事を通して、親しくなる方々も増え、鳥羽・錦町での生活も充実していった感がある。

ただ、時代の流れと共に、町内会加入の戸数も減少の一途を辿り、令和七年度の戸数は六十六世帯である。この解決策はあるのでしょうか。そして、近い将来、必ず起こると言われている南海トラフ沿いの大地震や大津波も大変気になるところではあるが、少子高齢化に伴う人口減少の課題を克服するためにも、町民と行政が知恵を絞りながら、新しい鳥羽・錦町の街づくりを進めたいところである。



大山祇神社「とば春まつり」

よこまち 横町町内会

町内会加入：34 世帯



新制「横町町内会」出航

横町町内会 会長 梅村 宜代

自治会連合会 20 周年記念誌の町内会だよりを読み返してみると「65 年前の昭和 6 年、細長く狭いこの横町通りには、町民 430 人、105 戸という商家が肌を寄せ合うように軒を連ね、老若男女みんな仲良く助け合い暮らしていた。」「現在の横町町内会はすっかり過疎化し、掲げた世帯数も半減、町内会活動はやりづらく、老人会をはじめ他の諸団体も同様で、市内各皆さんには不義理をおかけすることが多い。」との記述があります。

それから 30 年、さらに過疎・高齢化が進み、町内会加入は 34 軒。（居住世帯に限ると 30 軒を下回っています。） 空き家や空き地、駐車場転用地も多くなり、ひとり世帯も少なくありません。そんな町内会の現状を鑑みて、2024 年は話し合いを進め、2025 年度より大きく町内会の運営体制を見直しました。今まで町内会運営を担ってくださっていた方々が運営や活動が難しいご年齢になってきたこともあり、感謝しつつ世代交代を模索してきました。また老人会については残念ではありますが、休会ということになりました。

お互いの意思疎通ができていたため口頭等による引き継ぎで運営されてきた町内会、その良さはあったとは思いますが、新体制となったことを機に「会則」を文章化したり、「運営委員会（総会）」を開いたりしています。また、町内会の運営や活動もできるだけシンプルにし、少人数で小回りのきく利点を生かしてしていこうと新たな出発をしたところ です。

そして、2025 年 4 月の春祭りでは、町内で活動できる方々のご協力を得て、「年番」の役割も果たすことができました。

幸いこの 10 年間に転居してきた方もいますので、できる範囲でできる活動をしていこうとしています。役員は転居してきた者が主に務めていますので、分からないことも多いですが、新しい視点での運営や活動もできるのではないかと思います。

小さくて少人数だけどお互いの顔が見える町として…。



なかのこう 中之郷町内会

町内会加入：80 世帯



中之郷が誇る素敵な拠点

中之郷町内会 会長 藤本 律

中之郷が誇るいくつかの素敵な拠点をご紹介します。

まずは「中之郷会館」です。平成二十一年に竣工した町内会所有のコミュニティセンターで、町内会の会議や集会、月二回の高齢者サロン「わくわくサロン」、書道・ヨガ・太極拳などの教室、地域団体や事業者のイベント会場として幅広く活用されています。春祭りの拠点や、土砂災害時の臨時避難場所としても重要な役割を担っています。今年度は鳥羽市の補助を受け、外壁などの修繕工事を行い、さらに快適に利用できるようになりました。

次に「中之郷公園」です。ブランコやすべり台のある小さな公園ですが、放課後や休日には多くの小中学生が集い、長年にわたり地域に愛されてきました。住民の多くがこの公園で遊んで育ち、今も祭りや地域イベントの会場として活用されています。町内会が所有・管理しており、地域の憩いの場です。この場所は、かつて「下の河岸」と呼ばれた船着場だったそうです。令和五年度には宝くじ補助金でブランコが新しくなりました。

そして「金胎寺」です。平安時代からの歴史を継承する由緒ある寺院で、四国八十八箇所霊場とともに地域の人々に信仰されてきました。中之郷地区の津波避難場所でもあり、令和四年度には市の補助を受けて防災倉庫を設置し、津波避難を想定した備蓄品を保管しています。私も子どものころ、曾祖母に「地震の時は観音さんに逃げやいかん！」と教えられて育ちました。きっと過去の津波被害から語り継がれてきた教訓なのだと思います。平成七年に焼失した本堂は、このたび「六角堂」として再建され、地域の新しいシンボルとなりました。ぜひ一度お立ち寄りください。

高齢化や世帯数の減少により、財政面・人手の面で運営は年々厳しくなっていますが、自治会連合会との連携や市のご協力をいただきながら、次世代にこの環境を引き継ぐための方策を模索しています。



ふじのごう 藤之郷町内会

町内会加入：60 世帯



藤之郷町内会 会長 池田 修

「歴史・伝統・文化を紡ぐ」

大山祇神社例大祭(4月)に合わせ奉納される、獅子と天狗の舞、春を告げる祭りとして四百有余年続く「鳥羽春まつり」氏子である旧鳥羽城下四町が輪番制で四年に一度担っております。

当町では、獅子中・天狗連・地謡連^{じゅうたいれん}・乱舞連で構成され、年番の年になると、各連が年明け早々から練習を始め、終盤では寺入りと言う各連合同の通し練習が続きます。

また、進行や祭り全体の段取りを町内会と協力し合う^{ごさんかい} 中老の五三会、舞所の設営、撤収などを行う(通称)御座連と言われる縁の下の力持ちによって支えられ、町内の老若男女が一丸となって祭りを行います。

昨今の少子高齢化の影響で人員不足が懸念されております。これは当町だけに限らずどこの町も同じ悩みを抱えているかと思えます。

年番が近づくと人が集まり、学校・仕事が終わった後、長い長い練習期間を経て、祭典当日は各連ハレの日を迎えます。この素晴らしい祭りが継続されることに尽力していきたい。



「災害に備える街づくり」

当町では、年間事業の中に、避難路整備・側溝清掃・放水訓練・盆踊り・敬老会、等々多種多様な事業を実施しています。災害と盆踊り?敬老会?と思われるかたも見えると思いますが、これは当町が大切にしているものの1つで、災害時・避難時にはコミュニケーションが欠かせない重要なものになってくると考えております。

各出合い作業やイベントは強制も強要もなく、出れる方が出れる時間に出て頂いております。皆が集まり、雑談や時には昔話に花が咲くこともしばしば、ただ、そんな何気ないお話の中にも、町内の近況や災害・避難に役立つヒントも多々出てくることもあり、町内会幹事会で話し合ったり、実際現場へ出向いて状況確認し、事故につながる事柄を未然に防いだりしております。小さい街だからこそコミュニティーの力は甚大です。



おくだに 奥谷町内会

町内会加入：62 世帯



「奥の谷」

奥谷町内会 会長 中井 則方

「奥谷」…町名通り、谷にある町であります。

鳥羽市在住の方でも、どの辺りにあるか知らない方も多いと思います。

私自身、鳥羽育ちではありますが、就職してから二十年程鳥羽から離れて生活していましたが、息子の幼稚園の入園時期にあわせて祖父の家のある奥谷に移り住み 10 年程になりました。

住み始めると近所の方、町内の方々にも良くしてもらえ、「奥の谷」だけあって町内の出入りは、ほぼ住人だけという状態なので安心して子育てしながら暮らせました。

そんな町内も、ここ最近では空き家、空地が目立つようになってきました。これは鳥羽全域でも同じ事が言えるのではないのでしょうか。

ここ近年の異常気象による大雨や近々起こりうるであろうと言われている大震災で古くなった空き家、崩れ落ちそうな山の斜面や石垣、生い茂って高くそびえる木等が民家に影響するのではと心配でなりません。

町内も例に漏れず高齢化が進んでおり住人も減少傾向にあります。私自身、精力的に動ける内は何かしらの貢献が出来るように努めたいと思っています。

あかさき ハイツ赤崎町内会

町内会加入：31 世帯



ハイツ赤崎町内会 会長 下辻 富士雄

【年間の主な行事】

春、夏、秋頃に出合いの掃除を行います。

(芝生、樹木の伐採や手入れ、花壇の花植えなど)

3月には自治会の総会を実施しています。

あかさき 赤崎町内会

町内会加入：45 世帯



わが町赤崎

赤崎町内会 会長 杉江 謙次

鳥羽市の重要な課題、少子高齢化の波は赤崎にも押し寄せています。空き家も増え、戸数五十足らずの小じんまりとした穏やかな町内です。赤崎の人々にとって崇敬の場となっている赤崎神社についてお伝えします。

赤崎神社は、伊勢神宮一二五社の中で唯一鳥羽にある末社です。神宮の神職の方により年五回の祭礼が行われます。二月に祈年祭、六月に赤崎にとっては最大の年間行事である赤崎祭の月次祭、十月には神嘗祭、十一月には新嘗祭、十二月には月次祭が赤崎神社にて執り行われます。

その中でも赤崎町民が楽しみにしているのが六月二二日に行われる赤崎祭です。赤崎祭は、別名「ゆかたまつり」の愛称で昔から親しまれています。普段は静かな赤崎町内ですが、この日は屋台が並び、たくさんの人で賑わいます。コロナ過で中止せざる負えない時期もありましたが、再び赤崎祭ができるようになりました。今年は、日曜日だったこともありたくさんの人に来て頂きました。また、祭の準備にあたって、藤之郷の方に杉葉採取をして頂き、赤崎町民は集会所に集まり袋貼り、杉葉詰め作業をしています。

赤崎祭当日は、神宮の神職の方が赤崎神社に見えて祭礼が行われます。その後町民も集まり赤崎町内会会所にて「^{なおり}直会」が行われます。酒も振る舞われるので神職の方から貴重なお話も聞かせてもらえます。

最後になりますが、カムチャツカ半島の地震では、旧四方谷整形外科の避難所に一〇名程が避難しました。暑さ対策、雨対策等、長時間の避難に耐える方策を町民の方と話をし準備をする必要があると感じました。日々のつながりを大切に、緊急時にも支え合える町内でありたいと思います。



ごちょうめ 五丁目町内会

町内治会加入：70 世帯



安心できる、心の拠り所のある町内会を

五丁目町内会 会長 島田 通

五丁目町内会は、近鉄赤崎駅を中心とした地域にあり、七つのグループから成っています。年間活動として、清掃活動（五月）、夏祭り・やすらぎ地蔵供養（八月）、敬老会（九月）、一斉避難訓練（十一月）を行っています。この他に、毎週火曜日、公民館にて「いきいきサロン事業」として、カラオケを楽しんでいます。

五月の清掃活動では、各グループが自宅周辺の除草や溝掃除を行い、終わったところから公民館周りの清掃に参加することになっています。

八月の夏祭りは、五丁目町内会のメインの行事で、町内のみなさんも楽しみにしています。参加者全員が輪投げを行い、上位十名には商品が出ます。簡単にできそうですが、板に弾かれたりしてなかなか入らず、みなさんは苦戦しながらも楽しんでいます。

有志によるカラオケもあり、大人だけでなく、積極的に参加する子どもたちの姿も見られます。最後には全員で歌を歌います。

一番盛り上がるのがビンゴ大会です。読み上げてほしい数字を祈りながら、カードとにらめっこしています。ビンゴになったみなさんは、うれしそうに商品を手にして、意気揚々と席に戻っていきます。

やすらぎ地蔵供養は、海上保安庁旧標識管理事務所と一緒に取り組んでいます。昔、この付近で水の事故や災害が続いたことから、お地蔵さんが立てられ、供養が始まったそうです。

さて、五丁目町内会は、公民館の老朽化や防災対策が大きな問題となっています。町内が加茂川の近くにあるながら、防災対策はけっして充分ではありません。みなさんが安心して過ごせる施設を、そして、その施設で楽しくつながり合えるような町内会をめざしていきたいです。



かたかみ 堅神町内会

町内会加入：156 世帯



山の神祭典について

堅神町内会 会長 樋尾 修

山の神神事は、江戸時代から受け継がれている行事である。

女の神とされている山の神は、堅神町山あいの男岩と女岩に祀られている。

男岩、女岩の2か所で執り行われる神事は、山での作業の安全と五穀豊穡を祈願して初めて山に入ることを許されると伝えられている。

また、一切の神事は男性のみで執り行うのがしきたりとなっている。

祭典の一週間前に境内の清掃、祭壇の作製、しめ縄、清祓用の竹筒を作り、当日まで毎日塩水を切らさないようにするなど準備がはじまる。

当日は、御白餅、二重重ねの鏡餅、掛魚（ボラ二匹を一对とし男神、女神にそれぞれ二対をアオメカズラにてロエラに通す）を御供し、神事が執り行われるが、近年 人口減少や時代の変化により、準備及び神事を一日で執り行なわざるを得ない状況である。

このような伝統ある行事に女性が関わることができないのが残念である。

人口減少や時代の変化に流されることなく後世に受け継がれることを願う。



山の神 祭典の様子

やないちょう 屋内町町内会



町内会加入：122 世帯

町内の移り変わり及び現状と課題

屋内町町内会 会長 齋藤 陽二

昭和 40 年代に池上町から堅神町につながる 2 つの丘陵が平地に造成され、当時は、黒田団地・堅神団地などと呼ばれていたそうです。

それが、昭和 49 年に屋内町と命名されました。そのいわれは、地域の大部分が堅神町字屋内谷であったことからといわれています。

発足当初は、65 世帯で、人口は 224 人での船出でした。49 年後の現在は 122 世帯、315 人となっています。65 歳以上は 117 人で高齢化率は 37.1%です。

町内は閑静な住宅街で、幹線道路をはさんだ向かい側に鳥羽商船のグラウンドがあり、野球やサッカーに興じる学生の姿やかけ声は町に活気を与えています。

屋内町にとっての大きな出来事としてあげることのできる事柄は、平成 20 年に鳥羽小学校が、近くに新築・移転開校したことです。

朝夕には、元気に通学する子どもたちの声や姿に触れることができ、住民は元気をもらっています。

さらに、平成 22 年には「にしのつじ橋」が完成し、幹線道路を歩いて鳥羽小学校まで行けるようになり大変便利になりました。一方で、車の通行量が増え、急なカーブもあるため交通安全対策が一層求められています。

【現状と課題】

①人口減少と高齢化の進行

10 年前に比べると人口は 40 人ほど減少し、高齢化率は 4 ポイントほど上がりました。鳥羽市全体の高齢化率の 41.7%よりは低いものの日本全体の 29.4%からするとかなり高い数値です。

人口減少は地域の活力低下や、各種行事・団体活動の担い手不足につながります。

さらに、今後起こりうる自然災害、なかでも南海トラフ地震などで、誰一人取り残さない共助の担い手不足に直結します。

②空き地・空き家の増加

高台であること。鉄道の駅も近いこと。さらに、小学校が徒歩で通学できる距離にあることなどの要因から、新規の転入者もありますが、空き地・空き家の解消までには至っていません。管理不全の空き地・空き家の増加は、防災や防犯上で大きなリスクに繋がります。

こうした問題は、一つの町内会では、とても解決できることではありません。しかし、規模の小さいことはまとまりがとれやすい。一人ひとりの顔や名前が覚えやすい。などメリットの部分もあるととらえ、住民の安全・安心のため、また、絆を深めていくために地道な活動を展開していこうと考えています。

いけがみ 池上町内会

町内会加入：330 世帯



池上町内会の歩みと未来への取り組み

- 鳥羽市自治会連合会 50 周年を祝して -
池上町内会 会長 小久保 治文

このたび、鳥羽市自治会連合会が 50 周年を迎えられることを、心よりお慶び申し上げます。

私たちの町内会も、連合会の一員として、地域の絆を深め、住みよいまちづくりを進めてまいりました。この記念誌への寄稿を通じて、当町内会の取り組みをご紹介します。

この町は、昭和 39 年に造成開始され、池上町内会は 60 年以上の歴史を有します。長年にわたり、住民の皆さまのご協力のもと、地域の安全と美化に努めてまいりました。特に、防災訓練の実施は、毎年欠かさず行い、地震や台風などの自然災害に備える意識を高めてきました。たとえば、池上公園を活用した避難訓練では、近隣住民が一堂に会し、非常食の配布や救護訓練を実践。こうした活動を通じて、町内の連帯感を強めております。また、環境美化活動として町内一斉の下水掃除や草刈りを行い、美しい景観を維持しています。これらの取り組みは、鳥羽市の全体的な防災力向上に寄与していると自負しております。

近年、アフターコロナの時代を迎え、新たな挑戦に取り組んでいます。その一つが池上公園での秋まつりの開催です。キッチンカーや屋台、公民館で活動するサークル、小学校や高専との連携により、子どもから高齢者まで楽しめるイベントを開催。屋台やサークル活動の披露で、地域の文化を継承しています。公園は日常の憩いの場であると同時に、災害時の避難場所としても重要な役割を果たしています。地域の公園の役割を理解し、日頃から活用することで、いざという時に備えることが出来ます。さらに、今後はデジタル化を推進し、町内会アプリの導入などにより、災害情報の即時共有やイベント告知を効率化し、若い世代の参加を促進したいと考えています。これにより、連合会全体の情報ネットワーク強化に貢献できれば幸いです。

未来に向けて、私たちは持続可能なコミュニティを目指します。高齢化が進む中、福祉活動を拡大し、独居老人への見守りネットワークを構築。連合会との連携を深め、市全体の課題解決に取り組めます。これらの活動は、住民一人ひとりの協力なくしては成り立ちません。鳥羽市自治会連合会の 50 周年を機に、改めて感謝を申し上げ、私たちの町がさらに活力あふれる場所となるよう努めてまいります。引き続き、ご支援のほどよろしく願いいたします。



R6 秋まつり



R7 春レク



R7 草刈り



R7 AED 講習会

おはま 小浜町内会

町内会加入：230 世帯



町の活性化をめざして

小浜町内会 会長 下村 明義

少子高齢化が止められない我が町。

文化伝統も数少ないが青壮年も少なく、その為継承も難しくこのままでは益々衰退速度が加速していくことを町民全体が強く認識し、新たな一步を踏み出さなければならないと思っている。

我が町は、漁業者中心の町からサラリーマン中心の町へと変わり今に至っている。

また、働き場所が限られているので市外が働く場となり地元を離れ生活しなくてはならないのが現状。

さて、文化伝統・我が町の良さを考えた時、何があるのだろう。私は約 20 年近く地元を離れていたが離れてわかる良さが沢山あることに気づいた。それは何か、なんといっても風景である。この風景は町民にとって宝物だと思う。

これからはこの宝物を活かしていくことが町の活性化を成し得ることになると強く思う。

人が居てこそ町を生かせる、幸いにも新しい団地ができ、多くの若い世帯が居住している。今後は元気な高齢の方達に「一肌も二肌も脱いで頂く」。その為若い世代との接点の場を作り、相談役となり活躍して頂く。そのことにより町全体の活性と一体感の醸成に繋がっていくと考える。

小浜の文化伝統は今から作っていく。昔の良さを取り入れながら今流の伝統作りを始める。

人が集まって来るようにするには何があるか。

一つとして、町の財産の風景を活用した景勝地の整備をすることにより、当町内の宿泊施設に泊まれたお客さまの行き場所の提供が出来る。

そのことにより観光業に携わる方達との接点も増え今よりもより深い関係が築かれ、飲食店等の経営、地産地消による雇用の拡大が見込まれると思う。

今の状況を解決していくには、町民の結束と「ともかくやって効果をみる」「知恵は無限である」という気持ちを持って前に進んでいきたいと考えている。多くの問題があるが、前に進むことが今我々に必要なことだと思っている。

さかて 坂手町内会



町内会加入：128 世帯

明るい魅力的な町づくりへ前進

坂手町内会 会長 楠田 好昭

わが町坂手では過疎化と高齢化が急速に進み、高齢化率も 78%と市内トップの地区となりました。後継者不足などで棒練り、盆踊りも無くなり、町の行事が減っている状態です。

町内会役員選挙では今年度より年令制限、男女の区別も無くなり、役員の定数も少なくなりました。役員の負担が多くなり、大変困っています。

また、今年度より女性消防隊も無くなり、消防団員は 5 名中 2 名が町内会役員を兼務しており、人材不足が進んでいます。

そんな中で、令和 5 年 10 月から集落支援員が発足し、高齢者への声かけ、見守り訪問活動、防災に関するアンケート調査や災害時に活用できる井戸の調査整理などを行ってくれました。

また、見守りと住民の交流拠点として、あやめカフェを開催し、月 2 回、町内のあやめ館でおいしいコーヒーと手作りケーキで好評を得ています。町のイベントが少ない中で、高齢者のちょっとした気分転換と楽しいおしゃべりで賑やかな場ができあがっています。これからも集落支援員に期待しています。

若者も居なくなり、20 代は 2 名だけとなってしまいました。淋しい限りです。町中も静かで、小さな子供の声が聞えて来るだけで、高齢者は喜びと元気がもらえる気がすると言っています。

「坂手ってどんな所？」と聞かれると「何もない所」と答える人が多いのですが、ネコの島で有名になり、YouTube で検索すると坂手島がでるようになりました。近頃ではネコ目当てで来る観光客も増えています。また、手付かずの自然も多くあり、急な坂道や階段も多く、不便だと思わずプラス思考でありたいものです。顔見知りばかりで人情深く、とても住み良い町です。これからは、助け合いの精神で明るい魅力的な町づくりが進んで行くよう望みます。



あらしま 安楽島町内会



町内会加入：240 世帯

安楽島町内会の取り組み

安楽島町内会 会長 鈴木 孝明

私たち安楽島町内会では、地域に根ざした多様な活動を展開し、安心して暮らせるまちづくりに取り組んでおります。

まず、「どーどいの活動」では、地域にあるさまざまな団体を数珠のようにつなぎ、互いの活動を支え合いながら地域力を高めています。こうしたつながりにより、住民同士が顔の見える関係を築き、暮らしの安心につながっています。

子供会では、二十年にわたり「ぼうさい探検隊」を継続して実施してきました。子どもたちが地図を片手に町内を歩き、危険箇所や避難場所を確認する活動は、防災意識を育むとともに、ふるさとを理解する大切な学びの機会となっています。



そして消防団と自主防災会が力を合わせ、消火栓を使った訓練を各組に展開しています。

また、「あらしま新鮮組」の朝市は、漁師の奥さんや海女さんなど、元気な女性たちが中心となって運営しています。新鮮な魚介や野菜が並ぶ朝市は活気にあふれ、住民や観光客でにぎわい、町の魅力を広く発信する場となっています。

高齢者の皆さんも生き生きと活動されています。老人クラブではグラウンドゴルフを楽しみながら健康づくりと交流を進めており、世代を超えたふれあいのきっかけにもなっています。

さらに、旧安楽島保育所跡地を「安楽島ひろば」と名付け、地域の皆が集う拠点づくりを始めました。野外映画会や町民運動会など、世代を問わず楽しめる催しを計画し、笑顔あふれる場所にしていこうとしています。

これからも安楽島町内会は、子どもから高齢者までが支え合い、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。



たかおか 高丘町内会



町内会加入：222 世帯

町内を歩いてみて

高丘町内会 会長 木下 悟

我が町高丘町は、加茂千拓地（現大明東町、大明西町）を埋め立てるため、昭和 46 年より造成が開始され、昭和 49 年 5 月に干拓地の盛土が完成するまで造成が続けられました。一区画 220 平方メートルから 300 平方メートルの宅地、約 100 区画が三重県住宅供給公社に売却され、他に安楽島町二・三男対策用地として安楽島町在住者に払い下げられました。昭和 48 年より安楽島団地として逐次分譲住宅が販売され、二・三男対策用地購入者の住宅、並びに運輸省高丘宿舎 24 戸と合わせて約 220 世帯で高丘町が構成され、現在に至っております。

高丘町隣接（安楽島町）の東及、北側は安楽島小学校と田園地帯、南及、西側は県道（パールロード）に接し、県道の奥は山林で自然につつまれた市内でも有数の団地で、住民も若く活気ある町でした。

早いもので分譲が開始されてから 50 余年、ライフラインの老朽化が目立つようになりました。特に市道のアスファルト舗装は一度も改修されていません。水道配管工事に伴う部分復旧舗装のみです。この復旧舗装の継目の亀裂が歩行者にはつまずきの元凶です。また元舗装との段差は降雨時水溜りになり、車の通行時に飛び散り、歩行者にかかります。二・三男対策用地として払い下げられた区画部の道路側溝は水勾配が緩く生活排水が滞留して沿道の住民は困っています。

大津波警報発令時、安楽島小学校が鳥羽市の避難場所に指定され、各町の住民に訓練で周知していますが、実際に発生した場合、車での避難者も多いと思われます。夜間の発生を考えると、町内の道路側溝沿の防護柵の改修も含め、市道改修は急務です。

路線バスが町内を通行していますが、安楽島小学校への通学経路と同じ経路です。町内会としては路線バスの経路を優先的に LED 防犯灯の付け替え事業を行っています。

高丘町は小高い山を削り造成された土地です。

分譲された住宅は平家建でしたが、現在約 7 割近くが 2 階建に建て替えられています。高丘町の土地は山を削った地山層であるので、震源が直下型でない限り、他町に比べ地盤の変位は小さいと思われます。ライフラインである町内の市水道は配水管の耐震補強を施せば対応できると思われますが、当町への水道本管の敷設経路が埋立地（大明東町）を経由しているので、本管に不具合が発生した場合の断水が考えられます。

対策として、町内には公有地がないので、安楽島小学校に防災を兼ねた特大の受水槽（普段児童が使用するので水は腐らない）の設置を要望していきたく思っております。

高丘町は人口 535 人、222 世帯（4 月 1 日現在）。町内へのアクセスは、県道より 2ヶ所、市道安楽島線より 1ヶ所あります。町内の家屋は道路境界線よりセットバックして建築されているので、震災時の小学校への避難には支障はないと考えられますが、町外より車で避難してきた場合、駐車スペースはありません。小学校の運動場の開放等、ハード面での避難計画の策定をしておく必要に迫られます。

おあきひがしまち 大明東町町内会

町内会加入：380 世帯



みんなが楽しめる町内会を目指して

大明東町町内会 会長 木下 房美

【大明東町 概要】

大明東町は、市営住宅団地 6 棟（152 世帯）と戸建て住宅（192 世帯）で構成されています。町内会は昭和 56 年 10 月 1 日に発足し、当初は、新しいまちとして若い世代が多く暮らしていましたが、近年は、第 2 世代、第 3 世代が卒業と同時に就職・進学等のために地元から離れて暮らし、町内には、第 1 世代のみなさんが夫婦 2 人で暮らしているという世帯が多くなっています。

市営住宅も老朽化が進み、若い世代の入居希望者も減っており、入居者の減少や高齢化が進んでいます。

町内会としては、各種イベント行事を継続することにより、世代間の交流を図り、住みよいまち・住みたくなるまちとなるよう努力をしているところです。

【町内会活動（年間事業）】

- ・春の大そうじ（5月）
- ・町内会夏祭り（8月）
- ・敬老祝賀事業（9月）
- ・自主防災訓練（11月）
- ・秋の大そうじ（11月）
- ・クリスマス会&餅つき大会（12月）
- ・紙リサイクルステーションの運用

【町内会広報活動】

「おあきだより」の発行（年間 6～9 回発行）
平成 24（2012）年 5 月 31 日 第 1 号発行
令和 8 年 3 月 30 日 令和 7 年度 第 7 号発行予定
累計 101 号（14 年目）

「町内会活動の広報として、平成 24 年 5 月から年間 6～9 回のペースで発行してきました。令和 7 年度は、7 回発行する予定ですが、第 6 号がちょうど 100 号になります。これからも町内会活動を多くみなさんに知ってもらい、町内会への理解を深めていただきたいと思います。」



町内会広報紙「おあきだより」平成24年第1号



令和7年第3号(通算第97号)

おあきにしまち 大明西町町内会



町内会加入：163 世帯

鳥羽市自治会連合会 50 周年記念に寄せて

大明西町町内会 会長 西井 貴

私たち大明西町は、鳥羽市の中心部にある静かな住宅地です。町内には、かもめ幼稚園があり、朝はかわいらしい園児たちの声が響きます。鳥羽高校の登校路にもなっており、登下校の時間には元気な高校生たちの姿が見られます。また、町内にはイオン鳥羽店と専門店があり、日用品から食料品まで何でもそろそろ便利な環境です。

町内会の行事は一年を通して大きく三つあります。春の「町内清掃」、秋の「防災訓練」と「にしまちフェスタ」です。町内清掃では道や公園をきれいにし、防災訓練では避難経路等を確認し、にしまちフェスタでは大勢が集まってにぎわいます。

町内にはアパートも多くありますが、町内会にまだ参加されていない住民の方も少なくありません。もしお時間やご都合が合えば、こうした行事や活動に少しでも関わっていただけると、とても心強いです。世代や住まいの形をこえて、顔の見える関係を築くことが、安心して暮らしやすい町づくりにつながると信じています。

高齢化が進む中でも、役員を中心に地域のつながりを守るための工夫を続けています。回覧板や掲示板を通して情報を共有しています。

自治会連合会 50 周年にあたり、これまで町を支えてくださった皆さんに感謝しつつ、これからも安全・安心で住みやすい町を目指してまいります。世代を超えて支え合い、地域の魅力と温かさを次の世代へとつないでいくことが、私たちの願いです。



公民館



役員会



ミーティング



避難訓練

ふなつ 船津町内会

町内会加入：163 世帯



みんなで楽しむ盆行事

船津町内会 会長 寺田 勝治

わが町内会の一大行事である盆行事は、8月13日には400年以上前から続く「盆大念仏行事」、14日には「盆踊り大会」、16日には地元の行者山登山の「行者祭」、20日には「大懸賞踊り大会」と行事が続きます。中でも「盆踊り大会」と「大懸賞踊り大会」は、コミュニティセンター前の広場を会場として、盆踊り愛好会が踊りの中心となり、町民や子ども会の会員も参加して午後7時からの2時間程度を10曲の曲目に合わせて踊ります。

14日の「盆踊り大会」の日は、消防団や子ども育成会の夜店もあり、たいへんな賑わいで、盆踊りの最中には、踊っている人に2回程度、景品をプレゼントしながら踊りの輪が最後まで途切れないようにしています。

また、令和6年度からは鳥羽市の姉妹都市であるサンタバーバラ市の交換中学生等も踊りに参加し、日本の文化である盆踊りを楽しんでもらいました。中でも踊りの最後の曲「ダンシングヒーロー」はハイテンポな踊りで、参加者100名ほどがリズムに合わせ最後まで踊りきり、大変盛り上がりました。

20日の「大懸賞踊り大会」は、町内の事業者の方に協賛品を募り、素晴らしい賞品をたくさん提供していただき仮装踊りを行います。今年も午後7時から8時までの間に仮装をした参加者が受付を済まし、午後9時ごろまで踊ります。

今年の仮装をした参加者は、子どもが28名、大人が6名の総勢34名の参加があり、審査は町内会の各組長さんが行い順位を決め、1位の方は、2万円程度の商品を獲得しました。

このように、町内会員のほか関係者が年齢に関係なく参加し、楽しく過ごせる行事をいつまでも続けていけるよう町内会役員一同が力を合わせ頑張っています。



盆踊り大会の様子

さちがおか
幸丘町内会

町内会加入：89 世帯



我が町「幸丘」

幸丘町内会 会長 濱口 等

昭和 42 年に誕生した「幸丘」は加茂川河口右岸部に位置し、元々は船津町の一部でした。知っていましたか？ 実は「さちおか」ではなく「さちがおか」が正しい呼び名！正直どちらでも構いませんが、皆さんが呼びやすほうで呼んでいただければと。

幸丘町内会は、昭和 59 年 11 月 1 日に設立されました。我が町には、古い歴史もなく、伝統行事もない。そのような中でも笑顔ある町づくりのため、町内親睦行事や敬老祝賀会を通し、住民同士がふれあいを深め、話し合い、助け合うための活動を行っています。

また、お年寄りの方々が中心となって活動している「しあわせ会」は、毎月 1 回、簡単クッキング、折り紙、カラオケなどを行い憩いの場をつくっています。

町内会組織とは違いますが町内には子育て支援組織「0. 1. 2. 3 サークル」があり、定期的にイベントが開催され、沢山の親子連れが集まり、賑やかな活動が行われています。同サークルさんにはいつも町内行事にご協力いただき、親睦行事や防災活動を盛り上げていただいています。

歴史や伝統がなくとも、これから歴史や伝統をつくっていければと考えています。

今後も子供やお年寄りのふれあいと明るい町づくりのために、活動を続けていくように努めていきます。



敬老祝賀会



子育て応援!! 0. 1. 2. 3 サークル